



さ ら ん べ

砂蘭部



北海道八雲養護学校
令和元年度 学校だより 第7号
令和2年2月28日(金)発行

題字イラストは児童生徒が作成しました。

北海道八雲養護学校は、独立行政法人国立病院機構八雲病院に隣接した、病弱の児童生徒を主に教育する特別支援学校です。

ついに『2020(にい・ゼロ・にい・ゼロ)』の年を生きる

北海道八雲養護学校 校長 佐橋正智

『2020』いろんな思いを乗せた1年、数年前から何度も耳にしてきた「にい・ゼロ・にい・ゼロ」の年に突入です。なんと言っても東京オリンピック・パラリンピックの開催は、今年の本国にとってメインイベントであることに間違いがありません。世界中のアスリートたちが、極限のパフォーマンスで世界中を沸かせることでしょう。また、パラリンピックには道内の特別支援学校出身のアスリートも出場予定です。札幌では、サッカーをはじめ、マラソンや競歩の競技が開催されることになりました。病院・学校の引越時期と重なりますが、その雰囲気や熱気を直接感じ取れるとよいですね。

そんな1年の始まりである始業式で、みなさんに伝えたことがあります。「丸いボールはすいすいと転がることができますが、一つ二つの突起があるボールは上手く転がりません。ボールは君たち自身、床は世間とか人生とか社会、突起は強い個性とか特長と例えると、君たちが人生を上手に進むためにどうしたらよいと思いますか？」と質問。返ってきた答えは「突起をとる。(つまり個性をとる)」。私の『こたえ』はこうです。「人間は一つや二つの飛び抜けた個性があると生きにくいこともある。でも、個性がたくさんあれば、しっかりと自分らしく前に進めます」と言って、全体がイボイボだらけのボールを床に転がしました。特徴がたくさんあると限りなく球体に近づく。しかも、突起の長さの分だけ一回り大きくなる。恐れることなく、自らの個性を伸ばし、新しい自分を常に見つけながら、大きな人間になってほしいと願います。

夢をもつことは、とても大事です。なぜ大事なのでしょう。

夢は、かなわないかもしれませんが、むしろ、かなうことの方が少ないかもしれません。
でも、夢をもつことは、ただそれだけで人生を潤してくれるものです。
夢をもつことが、生きる励みにもなります。

目標は達成するために、段階的に計画を立て、ステップをきざみます。

夢は大きくかまえていてかまいません。夢が目標になったときは具体的に達成への道筋を考え行動しなければなりません。

この夏、東京に集う世界中のアスリートのように、夢をもち、夢を目標に変え、達成のための日々の努力を惜しまず、晴れの舞台に立つ。みなさんの舞台は、どんな舞台なのでしょう。大きな夢と具体的な目標、自分の個性を磨き発見していく日々の姿勢が、みなさんに輝きをもたらすと信じています。

3月の行事予定

3月 4日(水)	臨時休校	3月 12日(木)	卒業式総練習(2校時)
3月 6日(金)	卒業式総練習(全校:4校時)	3月 14日(土)	卒業証書授与式(9:30~10:30)
3月 9日(月)	振替休業日		保護者懇談会(13:00~13:30)
3月 11日(水)	卒業式総練習(全校:3校時)	3月 17日(火)	移動図書館来校
	卒業生を送る会(4校時)	3月 24日(火)	修了式・終業式・離任式(3校時)

※3月4日(水)以降の予定については、今後変更になる場合がございます。

1/29 山の手養護学校との遠隔交流

中学部3名と札幌市立山の手養護学校の中学部7名の生徒で遠隔交流を行いました。今年度の2回目の遠隔交流でしたが、今回はeスポーツの「実況パワフルプロ野球」を行いました。両校で決めたローカルルールのもと、それぞれのチームで選手を選択したり、戦術を決めたりして対戦を行いました。試合は、遠隔で対戦しているとは思えない白熱した戦いで、一球一球に集中したり声援があがったりと、まさしくスポーツそのものでした。交流終了後、



両校の生徒から「またやりたい」という声が多く聴かれるなど、充実した時間を過ごすことができました。(小野寺)

2/20

ALT 来校

中学部では、ALT からバレンタインデーの過ごし方について紹介があり、生徒たちは積極的に質問をするなど、とても興味深そうに聞いていました。その後、バレンタインメニューを使ったビンゴを行い、とても盛り上がっている様子でした。小学部と高等部の合同授業では、“I want ~”の表現を使って質問しながら様々な材料を集め、バレンタインデーのスペシャルプレゼント作りを行いました。その後、日頃お世話になっている人に笑顔を添えてプレゼントを渡すなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。今年度のALTとの学習は今回が最後となりましたが、これまでの授業で学んだことを今後の生活に生かし、積極的に外国語を使う機会を増やして行ってほしいと思います。(山田)



コーディネーターより

「リンゴ」が「インゴ」になるんですが……。こんな相談を受けることがあります。大人は「リンゴ」という言葉を聞いたときに「リ」「ン」「ゴ」という3つの音で構成されていると瞬時に判断できます。(これを「音韻分解」といいます)しかし、4歳頃までの子どもは「リンゴ」という、なんとなくまとまった一つの音の塊として聞いているので、「インゴ」や「ンゴ」のように、少し似ているけれど違う言葉と間違えます。4歳くらいになると言葉を一つ一つの音としてとらえることができるようになり、最初の音や、最後の音を取り出して答えること(音韻抽出)も可能になるので、しりとりができるようになります。言い間違いが減らない場合は、この音韻分解、音韻抽出に課題があるのかもしれません。この状況は発達の段階における過程の一つとして起こりうるものですが、長期にわたるようであれば、保健師やお近くの専門機関に相談してみてください。(中川)

・参考文献：図解やさしく分かる言語聴覚障害 小島知幸編



移動図書館

本校では月に1回、八雲町立図書館の方にお越しいただき、図書館の本を学校で借りられるという「移動図書館」を行っています。この機会を用いて、本校では読書習慣の啓発に努めています。児童生徒たちはそれぞれ「絵本」や「料理」、「IT」など様々な分野に興味をもち、月に1回のこの機会をととても楽しみにしています。これからも図書館や八雲町の方々に感謝しながら、移動図書館を大切にしていきたいと思えます。(門)



学校日より「砂蘭部」に関するご感想・ご意見・ご要望など下記の連絡先まで、お待ちしております。



北海道教育委員会 子ども相談支援センター 相談窓口のお知らせ

電話相談：0120-3882-56 (無料、毎日24時間対応)
※子どもたちだけではなく、保護者の方も利用できます。



北海道八雲養護学校 ～日々の様子などをウェブページで発信しています～

八雲養護 検索

〒049-3116 二海郡八雲町宮園町128 電話 0137-62-3670 FAX 0137-62-3427

学校代表メール yakumoyougo-z0@hokkaido-c.ed.jp

学校ウェブページ <http://www.yakumoyougo.hokkaido-c.ed.jp>

